

ドラッグを止めるには始めるきっかけ以上の強力なきっかけが必要。執行猶予はただ薬物使用期間を結果として伸ばすだけのことになる。短い間でもしっかり罪の意識をさせるためにも、再犯させることのないようにするためにも1度目でも即実刑が必要だと思う。執行猶予期間中に再犯を犯し、結局実刑になる人があまりにも多いため。

(40代、同性)

ドラッグや薬物は頭でわかっているけど身体が要求することが多い。まして良い感覚を持っている人がやめるのは非常に難しい。

(40代、同性)

過去にいくつもの薬物を使っただけのSEXを経験したが薬物依存にはならなかったが考えが甘くHIVに感染した。もっと学校教育などで薬物に対しての情報やリスクなど力を入れて教えた方がいいと思うし、教わりたかった。それに適切な情報をもっと人の目につくよう発信してほしいと思う。

(30代、その他)

自身でコントロールができるのであればドラッグもストレス発散になるので良い場合もある。

(30代、性別その他、同性)

好きではない。

(30代、同性)

違法だからダメというよりも、自分自身がぼろぼろになるということを気づくことができれば再出発できると思う。それとドラッグや薬物をする人間は信用できないので、それが嫌でやめた。

(40代、同性)

法規制などが厳しすぎると思います。

(40代、同性)

元々はパートナーが薬物使用者で「やめさせたい」という気持ちで生活を共にしたが、断りきれず自分も手を出してしまったので、原因がなんであれ近づいたり甘やかしたりするのは、誰のためにもならないことを知りました。

(20代、その他)

やめるべきです。

(30代、同性)

やめようと思っても長年使ったらやめられません。だから思い切って違う場所に行く。僕は〇→△△(地名記載)に行って最初はきつかったですはやめれました。

(20代、同性)

その時間だけは体調改善するが、それ以外のほとんど多くの時間は体調がとても悪くしんどい。なので次につなげるんだと思う。腸内環境等がまったくやめて以降も改善せずコントロールがなかなかできないのでしんどい。ただやるより自分からのスタートではなくどの人もその時は誰かからの誘いがきっかけだと思うのだ。その連鎖も断ち切るのが難しいと思った。調査チームの皆様へ今はHAARTで成果はしていますが、診断された時点で家族子供をもつことは100%あきらめました。家族の性格上、何があってもカミングアウトはしないと決めました。できないと思います。親がなくなる翌日までは生きようと思っただけです(できるかわかりません正直)ただ日々生きるのがしんどく、意味が分からない毎日です。皆さんの活動が私のような人がいなくなる社会にしてほしいです。「普通に生きる」ということがとても難しいです。「一見」そうできても、とても苦しいです。どうかがんばってください。役立てれば幸いです。

(30代、同性)

私の場合はあまり気持ち良いと思わなかったの
で、はまらずに済んだと思う。一度快感を味わっ
たらなかなかやめられないのでは。

(40代、同性)

私は今は何も使用していませんが、周りでラッ
シュなど今でも使用している人が多すぎる。

(40代、同性)

ドラッグを色々な逃げ道とする方が居ますが、
ドラッグを使用しても何も変化しません。ただ、
自身の身体・精神を壊してしまうだけである。

(30代、同性)

金持ち外国人にまんまとだまされた。外交関係
者だったから、彼らは法的にも守られ、好き勝
手やっていた。何にも助けてもらえず今思えば
本当に腹ただしい。早く法律が変わってほしい。

(30代、同性)

覚せい剤は使用してはダメ。大切なものをなく
してしまう。

(40代、同性)

「止め続ける」「今日1日だけ使わない」の積み
重ねで、7年が経ちました。使用していた期間
はすべてがめっちゃくちゃでした。今は止め続け
ることができていて幸せです。

(40代、同性)

社会から、またはコミュニティから自分は無用
で存在価値がなくてよいと感じたりした瞬間に
薬物へのトリガーが引かれた。強い仲間との共
同体意識と自分の本当の価値を自分と仲間とで
認めあえることが誰にでもできることなんだと
気が付いてほしい。

(40代、同性)

ドラッグの作用と副作用についての知識を啓発
する方が、ただ単にドラッグは悪いのでやめま
しょうよというよりかは効果があるような気が
します。

(40代、同性)

使う人は使うので、使用者に対しての安全な体
制を整えることが必要だと思う。

(30代、同性)

意外と簡単に手に入るので、たまたま自分は中
毒にならなかったものの、なっているもおかし
くなかったと思う。

(30代、同性)

人生が無味乾燥したものに思っていた。病気持
ちではパートナーとは出会えず、人生に悲観し
てしまう。そんな時に薬がやってきて…捕まっ
たことはよかったと思う。家族には迷惑をかけ
たが、愛されていることを知って、今はとても
充実した日々だと思えるようになった。けれど
いつかはパートナーを見つけたい。

(20代、同性)

かつてはラッシュがドラッグであるという認識
すらありませんでした。

(50代、同性)

性的興奮を高める為、安易に使用するが一度の
経験が再度の使用を求めるようになる。止める
ことが難しい。絶対に使用してはいけない。(60
上、同性)

精神の弱い人は特に手を出さない方がいいか
も。心がやんでるときや投げやりになった時、
注射針の使い回しダメ、血液の病気のこわさを
中高生のときからしつこく教えること。

(30代、その他)

とにかくふいに使用者がいることもあるので、むやみに流されてしまわないためイケないという情報がたくさんいると思います。

(40代、同性)

友人が薬物で仕事を辞めることがあり、人生をだめにするのが悲しい。

(30代、同性)

ドラッグは誰かにやめろと言われてやめられるものじゃないと思う。自分で気づくしかない。ドラッグをやらなくてもそれ以上に大切なものを見つければ少しずつでもやめられると思う。

(30代、女性、異性)

大麻は依存性も少ないのでタバコよりいいと思います。もう10年近くやっていませんが。

(30代、同性)

2. 覚せい剤等の使用経験はないが、ゴメオの使用経験はある方

(2-1) 1年以上前にゴメオを使用した、この1年内はゴメオ以外の薬物（ラッシュや脱法ドラッグ、ED薬等）を使用した方

ラッシュ等違法となったため、覚せい剤等に手を出す人が増えた。

(40代、同性)

昔はRUSH等は安く手に入れることができ、自らも購入したが、今でも色々なクスリを使用している人がある。やはり発展場で使用している人が多いと感じる。

(30代、同性)

つかわないようにコントロールしてますが、使ったときはやはり理性がなくなります。

(40代、同性)

幻覚作用の激しいハーブ・大麻・覚せい剤等については、本人の健康のみならず、他者への被害（介抱～救済まで）もあり、規制も必要と考えます。脱法～合法（薬事法規制外という意味）の覚せい系については、正しい使用で許容してもいいのではと個人的に考えます。（勃起薬も同じ）

(40代、同性)

全て依存によるものかと思うと、まさにそれら類をお金目当てでいる人たち、組織があるようです。それらを断ち切ることがそもそもHIVしかり心身ともに健全な人達が多い社会を作る事となるでしょう。

(30代、同性)

使用したい人は適量・ほどほどに使ってよいと思ってます。自己管理できる範囲内においてです。

(40代、同性)

簡単に手に入りすぎる。

(30代、同性)

セックスのときに薬物を使っている人をよく見かけるけど、セーフセックスがおろそかになる場合が多い。使わずにいるのがいいに決まっている！（止めるのも難しい）

(30代、同性)

決して良いと思うものではない！気持ちが悪くしてしまう→精神的弱さ。

(50代、同性)

ラッシュと勃起薬しか基本的に使ったことがないのであまり分からないが、他のはこわいものという気持ちはある。

(20代、同性)

ラッシュはいまだに持っている人が多いと思う。高揚感が増すのは確かだと思う。依存とまではいかないが、あると使いたくなるものの一つだ。

(30代、同性)

手元に置かない。入手ルートを探らない。

(30代、同性)

ラッシュ以外はかなり危険だと思います。ラッシュが違法になってからいろんな薬物が広がっていると思います。

(40代、同性)

RUSHくらいいいのでは…？

(30代、同性)

精神的うつ状態の子が覚せい剤していたらしく、外見から見ても情緒不安定。何もやっていない自分までおかしくなりそうなくらい発狂していた。恐怖に感じた。

(30代、同性)

今後使用するつもりはないです。

(20代、同性)

ドラッグ薬物に逃げないこと。

(50代、同性)

罪の重さを知らない人が多い。安易に使いすぎる。

(40代、同性)

危険な薬物利用者が増えていると思う。薬物常習者が性病である可能性は極めて高い。その上セーフセックスをしない人がほとんど。「薬の危険性」より「薬物常習者の危険性」を訴える方が良い。

(30代、同性)

規制しすぎるのも逆効果だと思う。

(50代、同性)

ラッシュやゴメオは何か知らないうちに使われ、その間何が起きたか分からない。基本的には禁止の方向で。

(40代、同性)

違法薬物が周囲にここ10年くらいですごく広がっていると思う。

(40代、同性)

知人でドラッグが原因と思われる理由で死亡した人がいます。自分自身がどうこうなるのは自己責任だと思いますが、それによってどうしても他の人に迷惑をかけてしまうことを思い知らされました。

(30代、同性)

ラッシュ・ゴメオ使用したことはあるが、脱法ドラッグになる前です。

(50代、同性)

快樂のために使用。(使用時はまだ合法だった)現在振り返ると常習的に使用する前にやめておかないと身体に大きな影響がでていたと思う。

(40代、同性)

(2-2) 1年以上前にゴメオを使用した、この1年内にはいずれの薬物も使用していない方

使用していいことはありません。

(30代、同性)

自分自身タイ目に合わないをやめれないと思います。

(30代、同性)

自己の管理が必要。

(40代、同性)

違法になれば使用しません。日本では入手しにくいというのもいいことだと思います。

(30代、同性)

使いすぎは普通の薬でもよくない。使っても平気なドラッグを知りたい。

(30代、同性)

一時的な快楽。当時、血小板が急激に減少。それ以降は不使用。

(50代、同性)

止めた方がいいと思う。

(30代、同性)

セックスドラッグでセーフを忘れてしまい感染したと思います。

(30代、同性)

当時、5Meo-DIPTは合法ドラッグで（今は規制されましたが）よく使ってましたが、大麻・覚せい剤に手を出さなくてよかったと思っています。

(40代、同性)

ドラッグや薬物を使ったセックスはふつうにするより気持ちいいので、入手する方法がわかれば依存する可能性は高いと思う。

(30代、同性)

普通に明るく生活ができることを望んでいます。

(40代、同性)

自己責任

(40代、その他)

使ったときは気分がハイになり善悪が判らなくなる！

(40代、同性)

ゴメオやラッシュは、出張ホストの人に勧められて知った！

(40代、同性)

ゲイ＝ドラッグと思われませんが、5メオ・ラッシュが禁止となり今はドラッグをやっているゲイは全くいないと思いますよ。

(30代、同性)

次から次へと出てくる新しいドラッグ。禁止されればまた新しいものが出てくるたちごっこ。禁止することも大事だが、使ってつらい目にあった人たちの写真や言葉などを若い子に聞かせ、「恐怖」なものと認識させる必要があるともう。

(30代、同性)

身体へのダメージが数年後先出てくると思う。私が今、そう感じています。

(40代、同性)

自己嫌悪になることが多かった。

(30代、同性)

使用したときの高揚感を、いつまでも体が覚えています。今は、使っていないけれど、目の前にあったら悩んでしまうかもしれない。ドラッグは人に相談しづらい部分だと思うので、相談するというハードルの高いものでなく、低いハードルのものが身近にあれば、とっつきやすい。

(30代、同性)

昔はいろいろなものが脱法でしたが、いたちごとことはいえど、迅速に対応するスピードを行政がもてるシステム作りが今後の日本には必要だと思います。新薬も迅速認可できるように。

(40代、同性)

以前のように簡単に手に入るような状況ではなく、自分自身で「こわい」体験もしたので、今はまったく対応として問題ない。

(40代、同性)

特に使う量を考えていれば問題はない。

(30代、異性)

より具体的な悪い実例を挙げて、使うことがどれほど怖いことか中・高・大で教えるべきだと思います。

(40代、同性)

自分が弱いから使用したのではと思っています。

(50代、同性)

HIV陽性者ではありませんが、甚大なストレスとラッシュ多用のため、大病を患い九死に一生を得ました。長期入院をいまだに繰り返しているようです。

(40代、同性)

犯罪として対応するより、精神や病気としてしっかり扱ってほしい。

(50代、同性)

使用する量や頻度が限度を超えてしまうと、正常な思考や判断ができづらく、やはり危険なものであると実感した。

(30代、同性)

体にどのような影響があるのか、情報が備わっていれば使うことはなかった。法で規制されて初めて手元にあったドラッグを処分した。

(40代、同性)

簡単に手に入るので、法律的にもっと厳しくした方が良い。自分が知らない間に使用される場合がある。

(40代、同性)

ぼつき薬やラッシュの副作用は感じられない。リスクはないと思う。5 MeOは副作用が強く使用したいと考えていない。

(30代、同性)

今はラッシュもほとんど手に入れるのは難しいので薬物にまったく興味がなくなりました。

(40代、同性)

仲間内で使用するとぬけ出す事が出来ないと思います。/現在は自分で病院に行くことがありますが、自分で行けなくなった時どうすればいいかわからない。何か参考になることを医療機関にてHIVの治療コーナーに示してほしい。

(60上、同性)

2度と使わないと思います。

(20代、同性)

ラッシュ非合法でけつほりがなくなり苦痛。

(40代、同性)

使用量を誤ると命を落とすかもしれない。
(40代、同性)

ハマると抜けられなくなるので、手を出しては
いけない。
(30代、同性)

3. 覚せい剤等やゴメオの使用経験はないが、ラッシュや脱法ドラッグ等の使用経験はある方

(3-1) この1年以内に、ラッシュや脱法ドラッグ等を使用した方

正直なところ、どれが違法であるかどうかわかりません。友人に勧められるがままに使用しているところもあるので、これから正しい知識を身につけていかないと感じているところです。
(30代、同性)

一度使用して、自分に合っていたりした場合、イケないとわかっていても使用してしまうこと、やめられない。
(40代、同性)

ドラッグは使うことで理性を失う。危険なセックスをしてしまう。それが一番危険なことだと思う。作用としては。だからこそ強く訴求できる啓発を行ってもらえると助かります。
(20代、同性)

使用後に体調に異変が出ることがあるので危ないとは感じますが、一時の快感のために使用してしまいます。中毒にならないように気を付けてはいますが…。
(30代、同性)

自身で管理できればいいんじゃないかと思うときもあります。
(30代、同性)

合法であっても使いすぎは注意すること。
(20代、同性)

友人で、覚せい剤使用してのSEX経験がある方はやめたくてもやめれないと言っていたので、一度でも使用してしまうとぬけだすことができないと思った。
(30代、同性)

自制心を強く持っていないと使ってしまうようになる。特に依存や後遺症はないが使ったあとに不安に思うことがよくあった。
(30代、同性)

アナルセックスの時のラッシュの使用は気持ちがいい。
(30代、異性)

知人が麻薬で2回刑務所に入ったことがある。ゲイの中には現在麻薬を扱う連中が多く、その恐ろしさを本当に知っているものは少なく、ただ快樂の追及に求める弱きものが多い。HIV感染者の中にもとても多いと聞く。医師や薬剤師、NPO、病院などでもっと啓蒙活動を実施し、恐ろしさを伝えてほしい。
(40代、同性)

裏ルートから手に入る。ネットでED薬は売っている。
(30代、同性)

(3-2) 1年以上前にラッシュや脱法ドラッグ等を使用したが、この1年内はラッシュや脱法ドラッグ以外の薬物（ED薬など）を使用した方。

薬物はいずれにせよ身体を蝕むので依存は厳禁。

(40代、同性)

根強い麻薬の問題をタブーにしないよう、受け入れながらなくすようにしてゆきたいです。

(40代、同性)

「薬物が危険」というよりそこで生じる快樂追求からの性感染の危険や結末を解説することが必要でさらに上乗せして薬物の影響を説く。

(40代、同性)

一度くらい使ってみればいいと思う。自己責任で。

(20代、同性)

ラッシュはOKにしてほしい。

(40代、同性)

(3-3) 1年以上前にラッシュや脱法ドラッグ等を使用したが、この1年内にはいずれの薬物も使用していない方

NO DORUG ! NO SEX !

(40代、同性)

金持ちに限ってドラッグや薬物に近い場所にいる感じがした。

(40代、同性)

ラッシュやリキッド、やりすぎると脳がおかしくなり体のしびれ、けいれんする。それからやめた。

(40代、同性)

ひと時の快樂より、自分は少しでも長く生きることができたらいいなと思います。親から頂いたたいせつな命ですから。セックスをするときにドラッグを使うのはとても気持ちいいかもしれない。でもドラッグを断れば日々の生活、つらいことはいっぱいあるけれど生きていればそれ以上の感謝と喜びを肌で感じることができる。ドラッグはやはり命を縮めてしまうものです。それに向き合ってくれる医師に対しても失礼です。自分はそういう道を選びます。

(50代、同性)

ドラッグによるSEXは絶対やめた方がいい。

(30代、同性)

とくになし。

(20代、同性)

手に入らないよう薬物管理が必要。

(30代、同性)

私が興味があったわけではありません。ただ、パートナーから進められて断りきれない状況におかれただけです。そういった方は多いように思います。リスクが高いのなら、もっと規制すべきだと思います。いまだにクラブとかで回っていますから。

(30代、同性)

誰にでも簡単に手に入るものです。

(40代、同性)

同性愛者の方のラッシュの使用は絶対にやめてほしい。私の場合、アナルSEXが多かったので、この先の方は絶対にやめてくださいね。もちろん今は売っていないので手に入らないと思いますが。私は約10年は使用していません。きっぱりやめました。使用するとアナルが痛くなくなり、すごく良くなるので使用しました。

(60上、同性)

私の周囲では、近年使っている人は少ないと思う。過去（10年前くらい）にはそういった話を聞いたことはあった。（脱法ドラッグの類のもの）

（30代、同性）

使用するの自己管理だと思うけど、やはり理性がなくなることは確かなので、正しい判断ができなくなるものなので危険はすごく感じる。本人だけでなく他人への影響もあるので気をつけなきゃいけない。

（30代、同性）

自己責任。

（20代、同性）

ドラッグに代わる合法的で安全なものがあればよいのになと思います。個人的には使用していないのですが、友人が海外で大量に購入し、自宅に保管しています。規制をかける必要性も重々承知なのですが、ゲイ同士のSEXについて目前に快樂の重要性があるのも事実だと思います。セーフでないSEX＝ドラッグ使用といっても過言でないのかもしれませんが。

（30代、同性）

セックスの快樂のために使用することがほとんどであろうが、使用しすぎでおかしくなったり亡くなった人もいる（知人）ので絶対に使用しない方がいい。

（30代、同性）

必要ない。

（20代、同性）

「子ども」「結婚」「社会に認められる」ことが「かすがい」になって生きていける人には要らないかもしれない。ドラッグがないと困るような社会は間違っている。ゲイなんて自己否定の毎日。うそをつくことで心は腐っ

ていく。麻痺していく。「どうでもよい」と思ってしまう。いまだに自分はパートナーがいることを職場では言えません。こんなドラッグ以前に世の中が腐っていると思います。なんでゲイの人にドラッグ使ったSEXにおぼれる人が多いのか日々考えています。将来設計などがしにくい社会が問題だと思います。SEX＞パートナーシップのようなことになってしまうので、早くパートナーシップ＞SEXといった社会になってほしい。パートナーシップが公に訴えられるような社会になれば変わると思います。

（30代、同性）

依存症の恐ろしさを学校教育で教えてほしい。覚せい剤は知られているが、脱法ドラッグ（ラッシュは以前脱法ドラッグでした）でも依存症になるということ。

（40代、同性）

ラッシュなど法律で規制されるとドラッグをみたりきいたりすることがほとんどなくなった。

（20代、同性）

法規制をもっと強化すべき。

（40代、同性）

ラッシュは発がん性があるなどと聞いて、使用することのをためらうようになりました。依存性がないのなら、個人で楽しんでもいいと思います。

（30代、同性）

使っても自分自身の為にはならない事。

（30代、同性）

ラッシュは、一時的に気持ちよくなるだけで頭痛になるのでたまに使う程度で10年以上前にやめました。

（40代、同性）

使用していたい。今この世にはいない事。

(30代、同性)

ラッシュをはじめとするドラッグ類は、僕は体質的に合わないので、基本的に使用しません。数年前まで、ゴメや薬物の経験のある人はセックスした時の感覚が忘れられないので、制止が効かないんだと思います。

(30代、同性)

個人のモラル。

(40代、同性)

(薬物・ドラッグの使用) でミスチョイスがありまして、違法になってからは全く使用せず、切り替えのいい性格からか、それ以降は欲することもありません。しかし未だグレーゾーンだったならば使用継続の可能性もあったかもしれません。

(40代、同性)

ドラッグ・薬物を使用することで得られる快感などの効果がありあられもないタイプ(体質)らしく、試す程度以外、使用の経験はありません。私自身にそのような経験はありませんが、セックスの際、相手に気づかぬうちにドラッグや薬物を体に仕込まれてしまい……という話を何度か聞いたことがあります(噂程度ですが)やはり自制じゃ注意力などを欠いてしまうような薬物はしっかりと取り締まるようお願いしたいです。

(40代、同性)

違法薬物を使用する人とは関わりを持たないようにしている。

(30代、同性)

1度ラッシュというものを使ったことがありますが、体に合わなかったのか使い方が悪かったのか、鼻が痛くなっただけでした。

(20代、同性)

当時(～30年前)は、さほど悪いことをして社会的に知らされていなかったので、気軽に手をだした感じです(ラッシュ)。

(50代、同性)

とくになし。

(30代、同性)

ゴメオやラッシュなどすべて規制したのは正解だと思います。昔はハッテンバに薬物使用している人が多かったのですが、だいぶ影を潜めました。それでも使用している人は今でもいるみたいです。

(40代、同性)

ここ数年、ドラッグや薬物使用による犯罪が多発しているように見受けられます。行政による注意喚起や教育が必要なのでは。

(40代、同性)

セックスのポジションがウケの方はタチからすすめられると、断りづらいのではないかと思います。

(40代、同性)

なし。

(30代、同性)

体に良くないので使わない。バイアグラに興味がある。

(20代、同性)

感染が分かってからセックスがバニラよりになり自然とRUSHは使わなくなりました。

(40代、同性)

自身のコントロール

(40代、同性)

自分自身は使用したくないのに、無理に使用を勧めるひとがいた。セックスの最中だと雰囲気もあるので断りづらいこともあるので困った。

(30代、同性)

SEX依存性になる可能性がある。

(30代、同性)

脳神経をはじめ肉体への影響をもっと具体的に伝えるべき。「ダメ」とか「悪いこと」と片付けず、肉体をどう破壊するかを理解すれば乱用は減る。

(40代、同性)

手軽に入手できる環境のため、規制を強めるべき。

(30代、同性)

小さいころからの刷り込み教育が必要かも。

(30代、同性)

世の中にあってはいけないものです。ラッシュを使ったのは、8年前でそれ以来使ってませんし薬物は嫌いです。

(30代、同性)

友人が使用していると知った時、自分に何ができるのかアドバイスの方法等が分からない。

(40代、同性)

ラッシュは吸いすぎると呼吸しづらくなる。

(30代、同性)

ラッシュは当時ドラッグには分類されておらず、周囲の人間も普通に使用し話題に出していた。

(40代、同性)

百害あって一利なし。

(30代、同性)

関わりたくない。

(40代、薬害)

4. 覚せい剤等、ゴメオ、ラッシュ等の使用経験はないが、ED薬の使用経験はある方

(4-1) 1年以内に、ED/ぼっき薬を使用した方

製薬会社が儲かるための社会を見直すべき。海外で認められている医療大麻（漢方）など、自然で安全なものを現場で認めないから脱法ドラッグが出回ってると思う。

(20代、異性)

周囲でドラッグ等を使用している人は、まったく健康の危惧とかがない。もっと危険性を認識させる社会的な手段が必要ではないかと思う。

(40代、同性)

私は酒もたばこも苦手で、ましてハーブやゴメとラッシュはくさいから嫌だった。知人友人はかなりの人たちがやったけど、今は持ってるだけでも危険なので最近誰も持ってないように思う。ハートの薬とシリアスは×だったけどバイアグラはOKなのでたまに使います。

(40代、同性)

勃起薬は体に負担がとて大きそうです。使用はよくなさそう。

(40代、同性)

(4-2) 1年以上前に、ED/ぼつき薬を使用した方

好奇心で一度だけ服用しただけなので、詳しくはわかりません。

(40代、同性)

5. いずれの薬物も使用経験のない方

まったく目にしたこともないので、田舎で普通に生活している者には無縁だと思うが、都会では手に入りやすい情報だと認識している。啓発する必要があると感じる。

(50代、異性)

まったく使用したいと思ったことがないので分からない。

(60上、同性)

結局バイアグラは何の効果もありませんから、使用していません。神的啓示により、肉悦から法悦に向かってるので、肉体はぎこちなく不完全なものという認識を新たにしております。それでも肉体は神の容れものですので愛してやみません。

(60上、同性)

手軽に入手しやすいと思う。

(50代、同性)

やめたくてもやめられないっていうのはとても苦しいと思います。簡単に更生できないということを根底に支援してくれる場所があればと思います。

(30代、同性)

すべてのことについて言えることだが、早い段階から学校や地域、家で子供とその話題について教えたり話し合ったりすること。特にマスクもそういう番組を取り扱ってほしい。

(60上、同性)

周囲にかかわることがないので関心がない。

(無回答)

快感を得たいなら仕方がないけど、現実逃避をしたいなら周りに相談しやすい環境があればいいと思う。孤独ですよ。

(40代、同性)

簡単に手の入るということ。

(30代、その他)

ドラッグ・薬物のこと自体あまり良くわからない。

(30代、同性)

罪が軽すぎると思う。

(40代、異性)

使用経験等ないので特になし。

(60上、同性)

ドラッグ・薬物の売買の規制を強めてほしい。

(40代、同性)

ストレス社会の中で一時的な快楽や逃避する社会がドラッグを進めるのか、基本的な知識やドラッグ経験者が語るなど知ることが大切。

(30代、同性)

周囲の人で使用している人を知りません。HIVウイルスだけで十分です。人間やめますか？ドラッグやめますか？いい言葉です。

(60上、異性)

ドラッグの接種はありませんが、テレビで放映されていて、特に危険性がいまいちピンとこない。

(30代、同性)

すべて依存症という言葉でまとめるのはよくない。

(30代、同性)

まったくそのような関わりのある人と付き合ったことがない。

(30代、同性)

過去の副作用や症例の大々的な公開。供給路の根絶等。

(40代、異性)

私はお酒を飲むと理性を失いがちになり、今も無防備な行動（SEX）をしそうになります。ドラッグも同じかそれ以上だときいたことがあります。自分が、より、周囲がのだれかに迷惑をかける、うつしてしまうのは避けたい。ドラッグはキケンだと思います。

(30代、女性、異性)

〇〇（具体名）クリニックはいかがなものかと思う。

(40代、不明)

ドラッグをする金銭的余裕も時間もないので、まったく関心がありません。

(60上、同性)

使ったことがないので分からない。

(60上、同性)

本当は自分自身で決めたことは何をやってもよい。しかし法的、観念的、慣習という物差しで測られることを覚悟する必要があるし、人に嫌な思いや嫌なことをした場合は裁きを受けなければならない。ドラッグもその一つだと思う。

(50代、薬害)

あらゆる薬物を禁止しても、余計にエスカレートしてしまうようになると思います。オランダのように軽い薬物を許可することで、劇薬の使用をおさえるといった発想も必要だと思います。

(40代、同性)

ドラッグは正常な判断能力を鈍らせることもあるため、HIV含め様々なリスクの要因になっていると思う。

(30代、同性)

ドラッグを使用してまで性的交渉をしたくない。

(20代、同性)

使用経験がないため、特にありません。

(30代、異性)

ドラッグを使う人はセックスもコンドームを使用しない人が多いようだ。

(40代、同性)

依存症がなければいいのでは？

(30代、薬害)

身が減びるだけでプラスではない。事件も多いし周りが気に掛けてあげるべきだと思います。
(40代、同性)

使用経験なし。知人で使用している人もいない。
(60上、同性)

どんなにドラッグについて友だちに話されても別にドラッグをしたいと思わないし別に魅力を感じない。
(30代、同性)

本人、周囲にも関係ないので参考になることは特にナシ。
(50代、同性)

身近にあるものなので、自分自身でしっかり情報を身につけて、関わりを持たないようにしたいです。
(20代、同性)

判らない。
(60上)

違法薬物の営利目的輸入材の量刑が世界と比較して軽いことが問題であると思う。国内の他の刑事罰とのバランスは保たれているのかもしれないが、諸外国から見て日本は密輸がやり得になっており、外国人犯罪者の国籍国の法を尊重し、どちらか重い方を適用するという形で量刑の上限を外国人に関して死刑にまで引き上げて良いと思う。
(30代、同性)

薬物に対する知識がない人が多い。ネットに記載されている事より、恐ろしい事をわかっていない。もっと、薬物がどれだけ危険か教える講習や機関を増やしてほしい。
(30代、同性)

5MeOがはやった時には、話はよく聞いたが、オーバードーズで危険を感じても利用者は利用し続けている。やめる様に忠告しても聞かないし、利用者はその後連絡がとれなくなる事が多く、その後は不明。情報を与えてもオーバードーズで死亡することは多少減少するかもしれないが、止める事は出来ないと思われる。薬の常習性というよりも、強い快感を求める印象を受けます。なので、多くはいつでもやめられると思っているようです。入手経路を断つしかない、個人的には感じています。
(40代、同性)

やめられない人がほとんど。
(30代、同性)

身近に経験者がいないので、あまり関心を持っていませんでしたがもっと知る必要があるとおもうようになりました。
(60上、女性、その他)

自分には縁のないものと思っているので特にはないです。
(40代、同性)

脱法ハーブが容易に売られている。困ります。
(50代、同性)

SEXなど快樂で使う人が多い。また入手困難ため相手を捕まえるための1つの道具。現状から逃げたい人(精神的に弱い者の集まり)の一時的現状離脱。
(30代、同性)

“強制的”が存在しなければ、自己責任でいいと思うが…。
(50代、同性)

暴力団等が組織的に売っている方が問題だと思っています。

(30代、同性)

僕自身はドラッグとタバコは同じものと思っています。そういったものが「カッコいい」と思わせるような情報が少なからずあります。そういう意識を変えるよう努力していくこと、続けていくことしかないと思います。

(20代、同性)

ドラッグに興味はまったくない。ハッテン場といわれると簡易宿泊施設では多くの方が使用している。そういう場所を制限すべきだ。

(50代、同性)

誰にも話したり相談したりはほとんどありません。

(60上、不明)

使用したことがない。今後も使用しようとは思わないしその必要がない。

(60上、同性)

周囲にそういった問題を抱えた人がいないので、具体的には意見はありません。

(60上、同性)

やっている人は見たことあるけど、手を出すと何でもやりたくなる気持ちが出るから、病気にもなるんだと思います。

(40代、その他)

若い人たちの興味本位の行動。

(50代、異性)

周りにいないし考えたこともない。

(30代、同性)

たばこはドラッグです。カレーは飲み物ですと一緒に。

(無回答、同性)

芸能界で広まっているもの。

(40代、同性)

安易に手に入りやすいことを問題を感じます。友人を失いました。

(50代、同性)

使用しないにこしたことはない。

(50代、同性)

個人的に麻薬について、良い悪いは言わないし考えない。当人の勝手だと思う。殺人につながるようなことであればそれは考え直した方がよい。殺人は完ぺきに罪だ。

(30代、女性、異性)

友人がドラッグを使用していた時に自分がどうすればいいのか悩んだ…。通報した方がいいのか、しない方がいいのかなど。

(40代、同性)

ガンなど痛みを伴う病気の最終的な治療に大麻を使うときいたことがあります。自分の病気の最終段階を考えると不安なこともあり、基礎的なことを知っておきたいという気持ちもあります。

(40代、女性、異性)

特に身近に感じたことはありません。

(30代、同性)

身の破滅だからやめるべきである。

(60上、不明)

一時的な快樂の手段としてドラッグ使用は絶対にしてはいけない。

(50代、同性)

抜け出せないイメージ。

(30代、薬害)

薬物を使用した結果の写真などを見せる。

(60上)

自分も含めて周りにも経験者はいないので、ほとんど知識がありません。そういう人間が何かのきっかけで手を出してしまうと、深みにはまってしまうかもしれません。やはり公的に絶対ダメというPR活動は必要かと思います。

(50代、同性)

まったく興味がない事柄なので、何も思い浮かびません。

(40代、同性)

薬害も同性愛も関係ない。HIVに変わりはない。特に行政・医療の関係の方には、区別なく色眼鏡を使用せず、一人のHIV陽性者の話を聞いてください。

(40代、薬害)

軽いノリでやっている人もいる様子。友人の友人くらいの関係で、あまり周りにはいない。

(20代、同性)

世の中からなくなることはないと思います。残念ながら。

(40代、同性)

販売している不良外人を捕えればいいのか。元を絶たないといくら取り繕ってもだめだと思う。

(40代、薬害)

身近な人が利用経験があること。(リキッド、ラッシュ) 罪悪感がない(使用に関して) 害について認識を深める機会を設ける必要あり。

(30代、同性)

「ドラッグは手に入らないもので、自分にはあまり関係ない」と思ってしまったのが正直なところです。もちろん使用するつもりもないのですが、いざ目の前にドラッグがあった場合は、どんな気持ちになってしまうのか想像できず少し怖いです。

(20代、同性)

良い薬ができ、世界に広がることを願います。

(50代、異性)

D 考察・本研究の限界と今後の課題

本報告では調査の偏りについて検討し、本調査の限界について述べる。結果の詳細な分析については今後の課題とする。

1. 回収率について

本調査の回収率61.6%は、HIV陽性者を対象とした既存の郵送回収法調査の回収率としては高いが、前回調査の回収率66.4%と比較するとやや低下している。これは、前回よりも調査項目が多いことや、今回新たに追加した薬物についての質問が回収率に影響した可能性も否定できない。全体の40%弱の人は回答しておらず、このことがどの程度実態と相違があるのかは検討課題である。

2. 調査拒否された方について

調査票を配付しなかった方や調査協力を拒否された方の非配布理由や拒否理由については、各医療機関から情報提供して頂いている。医療者の判断で心身の状態から配付を避けた方以外の協力拒否は、各医療機関とも数名とわずかであった。拒否理由は、調査項目が多くて面倒であること、本調査に限らずアンケート調査に明確な拒否感があること、プライバシーを守りつつ調査票に記入する場が持ちにくいこと、などが挙げられた。

3. 外国籍の方について

本調査は日本語のみであり、調査票レベルの日本語読み書きが可能な方のみを対象としたため、外国籍の方は1.7%しかいなかった。厚生労働省エイズ動向委員会報告（2013年12月29日現在）では外国籍のHIV陽性者は16.1%である。外国籍の方は、日本国籍の方とは異なる生活課題をもっている可能性は高いため、今後は外国籍のHIV陽性者を対象とした調査が必要である。

4. 調査対象病院、非受診者について

本調査はACC、ブロック拠点病院、中核拠点病院以外に受診している陽性者は対象外である。また、感染判明後に医療機関を受診していない陽性者や、受診中断している陽性者は、本調査では対象とすることができない。

5. 診療情報について

本調査では各医療機関の診療情報とは連結していないため、HIVや他疾患の状態については陽性者本人が把握している状態の記載であり、実態と相違がある可能性もある。

(4) 薬物使用者を対象にした聞き取り調査 —HIVと薬物使用との関連要因をさぐる—

研究分担者：生島 嗣（特定非営利活動法人ふれいす東京）

研究協力者：野坂 祐子（大阪大学大学院）

岡本 学（独立行政法人国立病院機構大阪医療センター）

山口 正純（白十字総合病院）

中山 雅博（医療法人社団アパリア アパリアクリニック／日本ダルク）

大槻 知子（特定非営利活動法人ふれいす東京）

肥田 明日香（医療法人社団アパリア アパリアクリニック）

白野 倫徳（大阪市立総合医療センター 感染症センター）

研究要旨

薬物を使用しているHIV陽性者の割合は少なくないことが指摘されているが、HIVと薬物使用の関連性についてはまだ十分に明らかにされていない。そこで、HIVと薬物使用を関連づける要因を検討し、今後の支援や予防啓発に役立てるための基礎資料を得ることを目的に、過去に薬物使用の経験を有するHIV陽性者への質問紙調査及びインタビュー調査を行った。調査対象者は、ゲイ・バイセクシュアル/MSMの19人であった。

対象者には、社会復帰や社会適応への課題がみられ、うつ症状やPTSD症状を有する人もいた。家族関係の問題やセクシュアリティを理由とした社会的排除を経験した人もおり、メンタルヘルスや対人関係の持ち方に影響していると考えられた。

薬物使用の状況に関しては、薬物のイメージと認知が薬物使用の判断に影響しており、なかでも危険性のあるものを安全と意味づけなおすことで、抵抗感のハードルが下がり、使用を促進させることが明らかになった。自暴自棄な態度は、薬物使用時のセックスへの没入を加速させる要因としても挙げられた。また、セックスと薬物はさまざまなコントロールの手段として用いられ、その背後にはセクシュアリティを理由とした社会的排除も含まれていた。

さらに、HIVと薬物使用は相互に関連していることが示された。薬物使用による複数の要因によって、セーフターセックスが行われなくなっていた。HIV告知後も、薬物使用が原因で、医療機関につながらないケースもあった。このように、HIVと薬物使用は密接な関係がみられた。

今後、HIVと薬物、及びセクシュアリティに関するそれぞれの支援機関が連携するとともに、あらゆる機関でHIVと薬物、セクシュアリティの理解と支援のあり方について検討することが求められる。

A 研究目的

薬物を使用しているHIV陽性者の割合は少な

くないことが指摘されており（白野ら2011）、HIV診療にあたる医療機関やHIV陽性者への支援を行う民間団体等においても、薬物使用経験

のあるHIV陽性者に関わる機会が増えている。しかしながら、HIVと薬物使用の関連性、及びそれらの背景要因についてはまだ十分に明らかにされていない。

昨年度の研究では、薬物使用者への支援提供者10人へのインタビュー調査を実施し、支援の現場から捉えられる問題として、次の2点を明らかにした。(1) 男性同性愛者/MSMにおける薬物使用の背景の一つに、偏見と排除による孤立があること、(2) 薬物使用は性行動と結びついており、さらに無防備さゆえにHIV感染の一因となることである。

こうした社会背景をもとに、今年度は当事者を対象とした調査を実施し、HIV/AIDSと薬物使用の関連性と背景要因について探索的に把握することとした。

HIV陽性者への包括的な生活支援を検討していくうえで、薬物使用の状況や影響等をふまえながら当事者のニーズを明らかにすることが欠かせない。当事者の経験から、HIVと薬物使用を関連づける背景要因を検討し、今後の支援や予防啓発に役立てるための基礎資料を得ることを目的に、薬物使用の問題を有するHIV陽性者への質問紙調査及びインタビュー調査を実施した。

B 研究方法

1. 調査協力者の選定

研究の対象者は、薬物使用経験のあるHIV陽性者であり、ゲイ・バイセクシュアル男性/MSMに限定とした。

研究協力者の募集にあたっては、特定非営利活動法人ぐれいす東京の支援資源ネットワークを通じて、関係性が構築された他の支援者等による紹介と協力者募集の広報、及び本人への直接依頼を行った。

また、調査参加による薬物の再使用を防ぐために、過去1年間の薬物不使用期間（クリーン）

があるか、半年間のクリーンで支援機関とつながっているかのどちらかを条件とした。

2. インタビューの実施方法

個別での質問紙調査と半構造化面接を実施した。事前に、調査の目的や誓約事項等について書面を以て説明し、同意が得られた場合には同意書への署名を得た。

質問紙調査では、対象者の属性、これまでの薬物使用の状況、医療機関への受診や支援機関等の支援の有無、過去のトラウマ体験、メンタルヘルス（PTSD症状及びうつ症状）等に関して自記式での回答を得た。インタビュー調査は、半構造化面接法を用いた。

調査時間は約90分から120分であり、調査者はHIV陽性者への支援実践を有する研究者2名であった。

調査期間は、2013年9月から同年11月であった。

3. 分析方法

質問紙調査のデータは、数値化し、基礎データとした。

インタビュー調査は、調査終了後、録音された内容を逐語化し、HIVと薬物使用状況に関連する内容を中心に概念化し、概念のまとめりごとに見出しをつけたカテゴリ化を行い、語られた文脈にもとづいて各カテゴリのつながりを整理した（修正版グラウンデッドセオリー参照）。

4. 倫理的配慮

調査実施に関しては、特定非営利活動法人ぐれいす東京倫理委員会にて審査を受けた。調査協力者の健康への配慮と個人情報の守秘を誓約した。

C 結果

1. 対象者

調査対象者は、ゲイ及びバイセクシュアル男性/MSMの19人であり、セクシュアリティ、年代、HIV告知からの経過年、クリーンの期間、薬物使用による刑罰の有無、調査時点での就労状況は、表4.1の通りである。

表 4.1 インフォーマントの属性

セクシュアリティ	ゲイ17人 バイセクシュアル2人 (「プレイとしての男性とのセックス」「トランスジェンダーに近い感覚、女性ホルモン投与歴あり」)
年代	30代7人、40代11人、50代1人
HIV告知後年数	中央値6年0ヵ月(1年1ヵ月 - 16年4ヵ月)
クリーン期間	中央値2年3ヵ月(6ヵ月 - 5年6ヵ月)
刑罰	有10人 (平均1.5回の執行猶予もしくは実刑) 無9人
就労状況	有12人 (うち週5日就労10人、週3 - 4日1人、週2日1人) 非7人

2. メンタルヘルスの状況

調査時点の心的外傷(トラウマ)症状(IES-R)は、「PTSD症状ハイリスク群(≥25点)」に該当する人が4人(21.1%)であった。

また、うつ症状(SDS)は、「うつ状態」が1人、「軽度うつ状態」が6人であり、軽度以上のうつ症状を有する人は全体の約4割(36.8%)であった。

3. 薬物の使用状況

(1) 薬物の入手

薬物の初回使用時は、「他者に勧められて、もらった」という人が大半であった。薬物とはわからないまま摂取させられたケース(飲み物に入れられていた、口移しで煙を渡された、薬物とはわからなかった等)もあった。相手は、セックスの相手やパートナーが多く、そのほかクラブのスタッフや客からの勧めもあった。

初回から自分で薬物を購入した人もいた。

ハッテン場やゲイショップで薬物が売られているのを見たり、他者の使用を目撃したことで薬物の存在を知り、薬物が身近に存在していたことと安価であったことが容易なアクセスにつながっていた。

その後、自分で入手する手段を広げた人がほとんどであり、ショップやインターネット通販、売人からの購入などのルートを確認していた。

(2) 薬物のイメージと使用にまつわる認知

薬物使用前に抱いていた薬物のイメージは、ポジティブなものもネガティブなものもあり、それぞれのイメージが形成された文脈と薬物に対する認知や行動の流れをまとめたものが次頁の図4.1(試行モデル図)である。

ネガティブなイメージに関連するものとしては、覚醒剤などの違法薬物が挙げられ、「法律違反」「ふみこみたくない」といった判断基準や障壁として機能していた。このイメージは、【(数十年前の)啓発CM】により形成され、典型的なイメージとして「廃人になる」という例が挙げられた。それに関して「抵抗感」「危険」「カッコ悪い・不健康」といった認知が生じており、これらの認知をする人たちは、覚醒剤を避ける行動をとる『覚醒剤不使用』群であった。

一方、薬物に対してポジティブあるいは「何のイメージもない」というニュートラルなイメージを持っていた人たちは、【クラブカルチャー】としての薬物や、【ショップ】で容易に安価で入手できる薬物を用いていた。クラブカルチャーで形成されていた薬物のイメージは、【オシャレ・カッコイイ】という評価で捉えられていた。また、ショップでは【安価】であるうえに「お店で売っているものは安全」と【安全】なものとして認知されていた。

『覚醒剤不使用』群は、覚醒剤に対して【抵抗】と【危険】の認知を持ち、それが使用を抑制していたが、使用者は「使用者の目撃」や「法律を知らなかった」という理由で【抵抗】を減らし、「覚醒剤のほうが安全」という理由付けで【危